デジタルテクノロジー株式会社

HCI（HPE SimpliVity）導入事例

パーソル ホールディングス株式会社 様
（パーソルグループ）

PERSOL

パーソル ホールディングス株式会社
（パーソルグループ）

本社事業所　東京都港区南青山1-15-5
URL　https://www.persol-group.co.jp/

1973年5月にテンプスタッフとして設立。2016年7月に新ブランド「PERSOL（パーソル）」を導入、同年11月から順次、グループ会社の商号変更を進めています。「人と組織の成長創造インフラへ」というビジョンを掲げ、すべてのはたらく人を応援。6つの主要セグメントを通じて、雇用に関わるあらゆる課題の解決に取り組んでいます。

HPE SimpliVityへの移行で仮想化環境の柔軟性を確保 グループ全体のイノベーション創出を積極的に支援

2016年7月に新ブランド「PERSOL」を導入し、「すべてのはたらく人を応援」しているPERSOL（パーソル）グループ。ここではグループ全体のイノベーション創出を支える仮想化基盤が、ハイパーコンバージドインフラストラクチャー（HCI）へと移行されつつあります。その最大の目的はリソース増強の柔軟性を確保すること。HCI製品としては、デジタルテクノロジー（DTC）が提案した「HPE SimpliVity」が採用されています。これによって目的を達成すると共に、パフォーマンスの大幅な向上も実現。クラウドライクに使えるため、今後進むと予想されるハイブリッドクラウドへのシフトも、容易になると評価されています。

課題
- 開発環境の老朽化への対応
- リソース確保の柔軟性確保
- 初期投資の抑制

解決
- ノード追加が容易なHCIを導入
- 最小2ノード構成で初期投資を抑制

リソース増強の柔軟性を確保するため仮想化基盤をHCIへと移行することに

深刻化しつつある日本企業の人手不足を、多様な働き方の実現と、雇用のミスマッチ極小化によって解決していきたい。このような想いから「すべてのはたらく人を応援」しているのが、パーソルグループです。

「PERSOL」は2016年7月に誕生した新ブランド。世界的なエンジニアとして知られるスティーブ・ウォズニアック氏と、80歳を超えてもなお現役のトップモデルとして活躍するカルメン・デロリフィチェ氏を起用した「はたらいて、笑おう」という広告で、このブランド名を認知している人も多いのではないでしょうか。経営体制としては、パーソルホールディングスを持株会社とし、国内外で合計73社のグループ会社を統括。「テンプスタッフ」や「doda」、「an」の主要サービスを始めとする数多くのサービスを展開しています。

「パーソルグループでは現在、イノベーションの推進、海外事業の拡大、グループシナジー創出を、重点テーマとして掲げています」と語るのは、2018年9月までパーソルホールディングス株式会社でITインフラを担当し、現在はパーソル キャリア株式会社 IT統括部に所属する佐藤 隆一 氏。ビジネスを支えるIT基盤もグループ全体として運営しており、2012年に開発環境の仮想化、2014年に監視サーバーなどを含む運用システムの仮想化、そして2015年には本番環境の仮想化を行い、データセンターの移設も行っているといいます。「このうち開発環境は2018年7月にハードウェア保守期限を迎えることになっており、ハイパーバイザーであるVMware ESXのバージョンも古くなっていました。そこで将来を見据え、仮想化基盤のあるべき姿を再検討することになったのです」。

検討を開始したのは2017年8月。当初からHCIへと移行することは、ほぼ決定していたと佐藤氏は振り返ります。その理由は仮想化された本番環境で、ある限界を感じていたからでした。

「パーソルグループでは急に新しいプロジェクトが立ち上がる事が多く、そのためのリソース確保を迅速に行うことが重要課題になっています。しかし本番環境の仮想化基盤は特定ベンダーの製品に依存するハードウェア構成だったため、リソースの追加に時間がかかり、長いときには6か月も待たされることがありました。このままでは柔軟なリソース管理を実現することはできません。そのため今後の仮想化基盤としては、1ノードずつ柔軟に拡張できるHCIを導入することにしたのです」。

4つの特長に魅力を感じ HPE SimpliVityを採用 HCIを熟知したDTCの提案内容も高く評価

パーソルホールディングスは複数のベンダーからの提案を受けた結果、2017年10月にDTCが提案したHPE SimpliVityの採用を決定。その理由は大きく4点あったと佐藤氏は説明します。

第1はIOPS（1秒あたりのI/Oアクセス数）

パーソル ホールディングス株式会社 様
（パーソルグループ）

の高さです。HPE SimpliVityはストレージがオールフラッシュ構成であるため、ハードディスクで構成される製品に比べて、IOPSが圧倒的に高いのです。

第2は拡張単位がきめ細かく、自由度が高いこと。HCIであるため1ノードずつ拡張できる上、追加するノードのメーカーも問いません。x86サーバーであれば、どのサーバー製品でもHCIノードとして活用できます。

第3は重複排除とデータ圧縮の機能の優秀さ。これらの機能は他のHCI製品でも装備されることが一般的ですが、HPE SimpliVityではその処理をハードウェアにオフロードしており、CPU負荷を増大させることなく重複排除と圧縮が行われます。また専用ハードウェアを使っているため、その処理速度も圧倒的に高速です。

そして第4が、最小構成が2ノードであることです。「HCI製品の中には最小3ノードからのものが少なくありませんが、2ノードからスタートできればイニシャルコストを抑えられます。これもHPE SimpliVityの大きな魅力だといえます」。

その一方で「DTCから製品を購入するのは今回が初めてでしたが、HCIについて熟知しており、製品比較の説明も的確でした」と語るのは、今回のHPE SimpliVity導入に参加した、パーソル プロセス&テクノロジー株式会社グループソリューション統括部でシニアITアーキテクトを務める関　昌央　氏です。「提案内容も優れており、私たちも十分納得した上で製品を選択できました」。

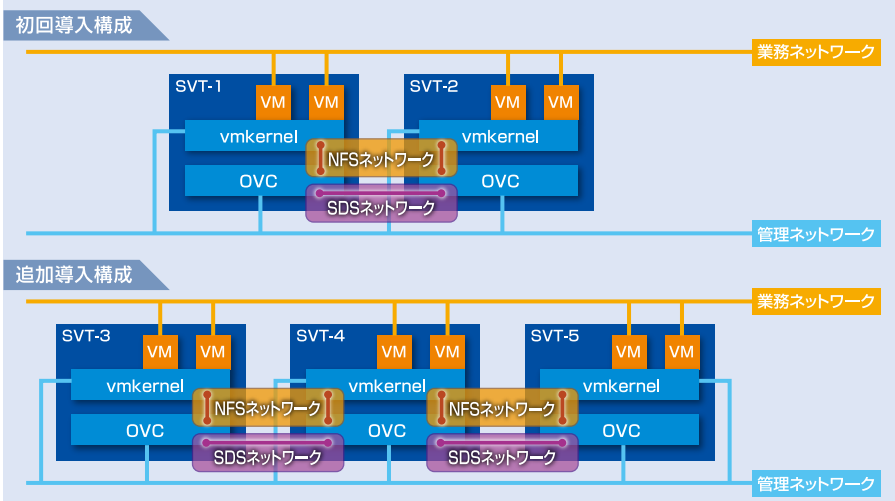
2017年11月には運用システムの移行に着手。2ノードのHPE SimpliVityを導入し、2018年1月に移行作業を完了します。2018年4月には開発環境の移行も開始しており、そのために3ノード構成のHPE SimpliVityを追加。現在は運用システムで約20VM、開発環境で約300VMが稼働しています。

必要リソースが増えても安心して運用可能 パフォーマンスも以前に比べて圧倒的に向上

「開発環境ではプロジェクトが立ち上がるたびにVMを追加していますが、リソースが不足した場合でもすぐにノード追加が行えるため、安心して運用を行えます」というのは、2018年4月からパーソル ホールディングス株式会社グループIT本部で、仮想化基盤の運用を担当している百富 崇 氏。VMの追加も、以前に比べて短時間で完了すると述べています。「以前の仮想化環境では、1VMをクローニングして立ち上げるまで、30分から1時間程度かかっていたと聞いています。しかし今では数秒から長くても1分で完了します。運用システムの動きもスピーディです。例えばOracle Enterprise Managerの画面表示の時間は、以前に比べて1/3程度になっているそうです」。

また関氏は「重複排除とデータ圧縮の機能によって、ストレージを効率的に利用できることも大きなメリットです」と指摘。クローニングでVMを追加する際も、ストレージの空き容量はほとんど減らないといいます。「当初は40TB以上のストレージが必要だと見積もっていましたが、実際にはその1/4程度で済んでいます。重複排除とデータ圧縮の効果がいかに大きいのか、改めて実感しました。HPE SimpliVityはオールフラッシュ構成なので、必要なストレージ容量を確保するには投資額も大きくなるのではないかと危惧しましたが、結果的には投資額を抑制できました」。

HPE SimpliVityの重複排除とデータ圧縮は、データバックアップでも大きな効果を発揮しています。バックアップすべきデータ量を大幅に削減できるので、極めて短時間でバックアップが完了するのです。もちろんバックアップのためのストレージ容量も、以前に比べて大幅に削減されています。



※OVC：OmniStack Virtual Controller

パーソル キャリア株式会社
コーポレート本部 IT統括部
IT部 ITリサーチグループ
佐藤 隆一 氏

パーソル プロセス&テクノロジー株式会社
システムソリューション事業部
グループソリューション統括部
コーポレートソリューション部
シニアITアーキテクト
関 昌央 氏

パーソル ホールディングス株式会社
グループIT本部
インフラ部 コアインフラ室
百富 崇 氏

「パーソルグループでは現在クラウドシフトを積極的に推進していますが、オンプレミスで用意すべきシステムもある程度は残ることになると思います」と佐藤氏。またグループ会社毎にクラウド化のスピードは異なるため、グループ全体としてはハイブリッド型のシステム構成になっていくだろうと語ります。「HPE SimpliVityであれば、オンプレミスでもクラウドと同じような感覚で運用できるため、ハイブリッドクラウドにも違和感なく組み込めます。近い将来には本番環境にもHCIを導入する計画ですが、HPE SimpliVityはその最有力候補になると考えています」。

デジタルテクノロジー株式会社
https://www.dtc.co.jp/

［東 京］　〒104-0032　東京都中央区八丁堀 2-23-1 エンパイヤビル
MAIL：sales@dtc.co.jp

［大 阪］　〒530-0001　大阪市北区梅田1-13-1
大阪梅田ツインタワーズ・サウス 15F
MAIL：osaka@dtc.co.jp

●本カタログ記載内容は事前の予告なしに変更する場合があります。●本カタログの無断転記･複写･改編は一切禁止です。●文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

2024.02